

思いのほか早い梅雨入りと異常な気温の上昇で、不快指数の高い 6 月でしたが、子どもたちは熱中症に気を付けながら、変わらず元気に過ごしていました。そうこうしているうちに例年にない早い梅雨明けとなりました。皆さまもどうぞ、暑さ対策、水分補給に十分気を付けられ、健康にお過ごしください。

さて、6 月 23 日から 6 月 29 日まで行われた「長崎っ子の心を見つめる教育週間」には、お忙しい中、たくさんの方にご来校いただき、ありがとうございました。

この教育週間の目的は、

【いのちを輝かせて生きる、心豊かな長崎っ子の育成を図る】

〔命を大切にする心や思いやりの心の育成〕

〔あこがれや将来への志の育成〕

〔あいさつやマナーの向上〕

と、なっています。

期間中は、全校集会、文化芸術鑑賞コンサート、授業参観・懇談会、図書ボラさんによる読み語り、強調月間パトロール等が実施されました。6 月 20 日には、「被爆体験・家族証言講話」も行われましたので、併せて一部ご紹介します。

【被爆体験・家族証言講話＜6月20日(金)＞】



今年度の被爆体験講話は、故 永井隆博士のお孫さんであり、現 永井隆記念館館長の永井徳三郎さんに家族証言講話ということでお願いしました。

とても温和な表情で、淡々とした語り口でありながら、祖父である永井博士がどのような苦難の中で、医者として原爆疾病者の救護にあたったのか、その後も余命の限られた中で、執筆などの活動を通して平和を訴え続けたのか、大変心に響くお話でした。

子どもたちにもわかりやすいたとえとして「1 + 1 = 1」のお話もしていただきました。ぜひ、お子さんに、どのような意味かたずねられてみてください。

【7月の行事予定】

2日(水)	人形劇ワークショップ 全校集会
3日(木)	チャレンジタイム(運動) 委員会活動
4日(金)	金融教室(4・5年)
7日(月)～10日(木)	個人面談 [午前中5時間:給食後下校]
11日(金)	音楽指導:谷崎先生(1～6年)
14日(月)	6年社会科見学(長崎の魅力発見・発信)
16日(水)	縦割り活動(遊び)
17日(木)	チャレンジタイム(算数検定) 集団下校
18日(金)	第1学期終業式



打楽器奏者の野尻さやかさん、声楽家の乗松えみさん、ピアニストの比嘉なるみさんをお招きしてのスクールコンサートが、1～3年生と4～6年生に分かれて実施されました。

子どもたちの気持ちを引き込むようなお話と演出、そして何よりもプロフェッショナルな歌と演奏に圧倒され、どの学年の子どもたちも目を輝かせながら聴き入っていました。

本物の芸術に触れる体験は、何物にも代えがたく、音楽を楽しむことのみならず、楽器が生まれた国の文化や楽器そのものの表現力、さらには音楽家の方々の音楽に対する情熱もうかがい知ることができ、大変貴重な時間となりました。

全校集会(校長講話) ※内容は短くまとめています。

「命に関する校長講話」(抜粋)

みなさんは、将来に夢や希望を持っているのでしょうか?今、勉強したり、努力したりしていることが、自分の将来につながっていると思えば、それはきつと幸せなことでしょう。(略)

〳留学のため、日本を離れる日が二週間後に迫っていたある日、校長先生は大きな事故に遭いました。大怪我をして入院し、ようやく病院のベッドで目を覚ましたときには、包帯でぐるぐる巻きになり、動けない状態になっていました。

この先、ちゃんと生きていけるのか不安でたまらなかったとき、看護師さんから、「あなたが意識を失ってベッドで寝続けたとき、病院の待合室には百人くらいの人が来て大変だったのよ。」という言葉が聞きました。生きる希望を失いかけていた先生に、「自分一人の命じゃないんだ。しっかり生きよう」という気持ちが湧き上がりました。その後、学校の先生になるという希望は叶い、外国にある日本人学校の教壇に立つことができました。

ここで、みなさんに伝えたいのは、「命は本当にかげがえないもの」ということです。納得のいく未来にするために、今、自分に何ができるかを真剣に考えてほしいのです。

いろんな性格や考え方の人がいる中で、それを受け入れられる心の広さを持つこと。自分の命が大切なのと同じように他の誰かの命もかけがえないものだ、心から思うこと。それがみんなの幸せにつながることは間違いありません。

先生は、これまで出会ったたくさんの人たちの優しい心のおかげで、ここまで生きてくることができました。

どうかみなさんも、この教育週間を通して自分を見つめ直し、人として人の命を大事にし、思いやる心を育ててほしいと願っています。